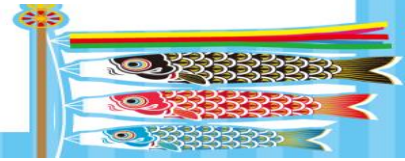


槌音

桶川市立桶川中学校
学校だより 第2号
令和7年5月2日発行



主体的に学び、社会に貢献する生徒

校長 小高 剛

風薫る5月。来週5日は立夏で、暦の上ではもう夏になります。校地内の木々が、鮮やかな新緑を競い合うように輝いています。

入学式・始業式からひと月。1年生は小学校との違いに戸惑いながらも、新年度の行事や授業への取組を通して少しずつ中学校に慣れてきているようです。2年生には後輩ができ、3年生は最上級生となり、それぞれに頼もしさが見られるようになってきました。

さて、表題の「主体的に学び、社会に貢献する生徒」は第1号でお伝えしたとおり、本校のめざす生徒像です。本日の講話集会で、「主体的」について次のように話しました。

主体的に似た言葉に、「自主的」というものがあります。何となく同じように感じるかもしれませんが、意味は似ているようで異なります。

「自主的」とは、自ら行動する様子です。やると決まっていることや、一度言われたり教わったりしたことを、人に言われる前に自ら行動するということです。

「主体的」とは、自分で考え、判断して行動する様子です。人に言われたり教わったりしなくても、やるべきことに自ら気づき、考え、実行するということです。

例えば、挨拶。親や先生に挨拶をしなさいと言われていたり、しないと注意されるから挨拶しておくか…などという流れで何となく「こんにちは」。これは自主的な挨拶。一方、挨拶は良好な関係づくりで、しかも簡単にできるコミュニケーションだし、それに、挨拶をするとお互いに心地いいんだよな…などという思いで「こんにちは」。これは主体的な挨拶。皆さんの挨拶はどちらでしょうか。

例えば、与えられた宿題。面倒だけど、やらないと親がうるさいし先生にも注意されるからやるか…などという気持ちで行うのは自主的な学習。やり方によっては、ただの作業になるかもしれません。一方、宿題は今日の復習だからしっかりとやろう。分からない所は“eラーニング”で確認、そして明日に備えて次のページも読んでおこう…などという思いで行うのは主体的な学習。皆さんの学習はどちらでしょうか。

例えば、将来は外国で働きたいからラジオ講座で外国語を学ぶ、ゲームクリエイターになりたいからプログラミングを学ぶ、というように、自分でやるべきことに気づき、考え、実行するというのも主体的な学びであり、主体的な挑戦です。

大人にも言えることで、例えば、上司に指示されたことを忠実に行うのは自主的です。もちろん、やるべきことや言われたことをしっかりと行う自主性は大切ですが、それだけでは、言い換えれば指示待ちです。大人でも子供でも恐らく多くの人が自主的ではありますが、主体的であることはより大切です。

生徒の皆さんには、自分で気づき、考え、実行する習慣を身に付けてほしいと願っています。そして、主体的に学び、主体的に挑戦し、社会的に自立して、自分の能力を生かして社会に貢献するための基礎を身に付け、未来の自分に誇れる今・中学校生活を送ることを期待しています。